

令和 6 年 2024 年度

自己点検および関係者評価
報告書

宇都宮アートアンドスポーツ専門学校

学校の現状

I. 学校の教育目標

1. 専門学校としての使命と目的

学校教育法第 124 条、及び第 125 条の規定に基づき、社会人として必要な教養と専門知識を有する有能な人材を育成し、文化教養及び商業経済の発展に貢献できる人材の育成を使命・目的とする。

2. 教育目標

使命、目的、教育方針のもと、教育目標を下記のように定める。

- ・ 専門技術や技能の習得
- ・ 豊かな人間性と個性の伸張
- ・ 誠実で心豊かな人間性の育成
- ・ 広い視野と優れた創造性を育む
- ・ たゆまぬ努力とどんよくな研究心・向上心の育成

これらを育むことにより自信をつけさせ「社会での生きる力」を植えつける。

II. 重点的に取り組むことが必要な目標（教育重点項目）

1. 学生の「やる気」向上の実現

2. ドロップアウト・ゼロの実現

重点項目	評価項目	評価※
1-1	学生の「やる気」を向上させるための研修は行われているか	3

※ 4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

課題

本校では毎年、学生対応に関する研修が行われている。それらの研修では、多様な学生に対する理解、そしてどのような指導が適切であり、学生の成長に効果を挙げることができるかを学び、吸収していく。この学びに対する教員の習得効果は、業務の捉え方や、感覚・経験値からの固定概念により大きな差がある。

今後の対応または改善

様々な事案に対する教員の適切な指導力向上が望まれる。各教員により指導の差異はあるが、効果的な指導や助言を積極的に取り入れ、指導力を向上させていく必要がある。心的要因を抱える学生、コミュニケーションに苦慮する学生に対して、個別面談指導（既存）やグループ学習を用いて、学生の力を承認し、個々を深く理解していく指導能力を求める。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・教育効果をもたらすことができる研修を選択できるかで、生徒一人ひとりへの対応も変わるのではないかな。
- ・生徒が求めるもの、期待するもの、これらを分析すべきと感じる。
- ・実際に、研修によってどのような効果が見られたのか？分析が必要。

重点項目	評価項目	評価※
2-1	ドロップアウト対策は計画的に行われているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

課題

- ・国内の経済動向により、各家庭で経済較差大きく生じる。その反映から学生の意に反し、就学困難な状況も発生し、そのような学生への対応をいかにすべきかが問題である。国による修学支援(減免減額・給付型)を経済状況の厳しい家庭に案内している。また従来の貸与奨学金も併せて利用するケースも増える傾向にある。
- ・不登校経験がある学生が、本学入学後に再出発するも、GWや夏休み等の長期休みの時期をきっかけに登校しなくなる傾向が強い。そのような学生に対し、どのような指導が適切か教員は苦慮する。
- ・学生の習熟度に差が出てしまい、学習意欲低下を招き学校の意義を見失いがちになる。学科別の到達目標もあり学科運営にも苦慮する。

今後の対応または改善

- ・家庭の経済的問題に対しては、国の教育支援や日本学生支援機構の案内を積極的に勧める。また学生を通して各家庭の事情の把握にも努めていく。必要に応じて、保護者との三者面談を実施していく。
- ・精神的な問題を抱える学生には、学校での対応及び公共機関の専門家と共に心のケアの充実を図っていく(既に継続的なカウンセリング、心療内科の通院を継続している学生もいる)
- ・技能力には学生個々の特徴がある。個々の特性を見出し、いかにそれを高めるかを主体にし、やる気を維持させていく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・経済的支援の枠組みは理解できた。
- ・不登校に対する指導方法は具体的に確立されているのか？
- ・心のケアとは具体的にどのようにおこなっていくのか？

Ⅲ.評価項目の達成及び取組み状況

1.教育理念・目標

項 目	評価項目	評価※
1-1	教育理念・目標・育成人材像は定められているか	4
1-2	学校における職業教育は何か	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	学校の教育理念・目標・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	3
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

課題

- ・1-4 教育理念等々、入学後のガイダンスや個別面接指導で実施される。ガイダンスは「学生の手引き」を用いて、個別面談では学生の将来像も含め詳細に実施される。保護者に対してはオープンキャンパスでの相談会に限られp情報が十分周知されているとは言えない。

今後の対応または改善

- ・1-4 学校の教育活動（サービス）を理解していただく必要がある。認識がない状況では信頼を得られない可能性があり、誤解も生じる。入学のタイミングで、保護者に理解していただく手段を検討していく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・御校の教育のビジョンを保護者と共有する必要がある。保護者に御校の教育を信頼してもらえるように、情報の共有方法を考えてもらいたい。
- ・小中高とは状況の違いはあるが、保護者の理解や賛同を得られる発信が欲しい。

2.学校運営

項 目	評価項目	評価※
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
2-3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	4
2-4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
2-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
2-6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
2-7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
2-8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

課題

- ・2-8 学校全体での情報システム化の運用あり。業務部門（事務局）では部門システムの運用もある。
教務部（教員）においては、システム利用に不得手があり不慣れ解消に若干時間を要す。

今後の対応または改善

- ・2-8 全教職員が情報システム利用の不慣れを解消し、迅速な情報の共有化等、作業の効率性を高める。
- ・2-8 学校側と学生の共有アプリを導入し、諸連絡や求人等の情報提供として運用している。
- ・2-8 Web 授業等の体制を構築できている。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・業務環境であるため一概には言えないが、教育現場として効率的な情報システムの構築は必要不可欠である。

3.教育活動

項 目	評価項目	評価※
3-1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
3-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対する教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
3-5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
3-6	関係分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4
3-7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
3-8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
3-9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
3-11	人材育成の目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
3-12	関連分野における業界との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントがおこなわれているか	3
3-13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みは行なわれているか	4
3-14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

課題

- ・ 3-4 スポーツ分野では、指導理論やアプリケーションを用いる測定・評価が日進月歩であり、授業反映に工夫を要する。
- ・ 3-5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携によるカリキュラムの作成・見直し等は、全ての学科で行われているわけではない。今後、各団体と学内状況を併せての検討を要する。
- ・ 3-8 職業教育に対する外部関係者からの評価は一部の学科のみ。全ての学科で行っているわけではないのが現状である。
- ・ 3-12 業界との連携において優れた教員の確保は難しいのが現状である。

今後の対応または改善

- ・ 3-5 全ての学科での企業・関連施設など業界団体との連携を検討する。
- ・ 3-12 関連分野における業界との連携をさらに深めつつ、教員のスキルアップの支援協力をいただくことができる、マネジメント体制を学校として構築していく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・ 産業界との結びつきは、専門教育にとって有効的である。
学校・企業間の連携は、それぞれが日常業務を抱えているため、大変難しいが、学校や教育の発展を考えるのであれば、開拓していくバイタリティが欲しい。

4.学修成果

項 目	評価項目	評価※
4-1	就職率の向上が図られているか	4
4-2	資格取得率の向上が図られているか	4
4-3	退学率の低減が図られているか	4
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用しているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

課題

- ・ 4-4 在校生の場合は状況の把握できている。卒業した生徒に関しては、各業界で顕著な活動をしている者以外、把握できてない。
- ・ 4-4 卒業生の社会的活躍及び評価は把握手段を模索する必要性あり。
- ・ 4-5 芸能系学科は外部制作現場と常に近い位置にある。キャリア形成の必要性を常時認識できる環境であり、授業へのフィードバックがなされている。他学科はこれと比較した場合、同等とは言えない。

今後の対応または改善

- ・ 4-4 今後、就職先企業とも連携を図り、卒業生の追跡調査（評価）を実施できるシステムを構築していく。
- ・ 4-5 各学科の独立している卒業生に現況報告を依頼し、活躍の把握やキャリア形成について回答をいただき、学校の教育活動改善への一端として活用していく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・ 卒業生の動向はなかなか掴めないと思うが、業界人の動向として掴んでおくべき。
- ・ 卒業後のキャリア形成への効果を考えるのであれば、各コースに関係する外部団体・企業との関わりを深める機会を増やすべき。

5.学生支援

項 目	評価項目	評価※
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
5-6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
5-7	保護者と適切に連携しているか	3
5-8	卒業生への支援体制はあるか	4
5-9	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
5-10	高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	3

※ 4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

課題

- ・ 5-5 学科ごとに課外活動に対する支援はなされている。
更に充実させるべきである。
- ・ 5-7 保護者との適切な連携に関しては、年 2 回の通知での連絡をしている。その他では、やり取りが必要な保護者に限られている。
- ・ 5-9 おおよそ全学科、社会のニーズを踏まえた教育環境が整っているが機器類に関しては、毎年最新を追い続けるのは難しい。
- ・ 5-10 高校との連携によるキャリア教育・職業教育については、一部の学科に留まるが実施されている。

今後の対応または改善

- ・ 5-3 学生に対する経済支援体制では国による修学支援（給付型等）を最大限学生に案内支援している。
- ・ 5-5 課外活動の場を、企業・団体にもご協力いただき、多様な活動ができるように検討していきたい。
- ・ 5-7 保護者との適切な連携に関しては、今後、面談希望の保護者がいれば、導入の検討もしていく。
- ・ 5-9 今後の社会のニーズを分析し、全ての学科において、それを踏まえた教育環境の提供を随時更新していく。
- ・ 5-10 現在の対応状況は、高校生対象の各講座を定期的実施している。検定試験対策講座、公務員試験対策講座、スポーツトレーニング講座など。

< 学校関係者評価委員記入欄 >

- ・ 5-7 保護者との密な連携ができれば理想的。生徒各個人の動向を保護者と随時共有できる手法を考えていただきた。
- ・ 5-9 社会ニーズの教育環境は、ハード面での視点だけでなく、教育の質の充実が重要。社会が求めるニーズを繊細に感じるべきである。

6. 教育環境

項 目	評価項目	評価※
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
6-2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
6-3	防災に対する体制は整備されているか	3
6-4	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3

※ 4 : 適切、3 : ほぼ適切、2 : やや不適切、1 : 不適切

課題

- ・6-2 インターンシップは一部学科が実施。授業としてカリキュラムに組み込まれている。
海外研修については、受け入れ先の未整備、学生にかかる費用負担等、の事情により現時点では整備されていない
- ・6-3 災害の発生を想定した避難訓練を実施しているが、定期的な実施の必要がある。
- ・6-4 安全管理体制は整備されているが、細部の検討が必要。

今後の対応または改善

- ・6-2 全学科での実施を目指したいが、業界によっては受け入れ不可の業界あり。実施可能学科を見極め、受け入企業を開拓していく。
- ・6-3 地域防災訓練にも積極的に参加して、地域住民との連帯意識を持たせ、学生の防災、安全行動の認識を持たせる。
- ・6-4 安全管理体制の更なる浸透と、迅速に運用されるよう模擬訓練を実施していかなければならない。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・6-2 インターンシップは企業理解という機会で見えれば、経験にはなると思う。しかし、目的意識をもたないで現場に来ていただく事は、現場として大きな負担となることも事実である。
将来のビジョンを持ち合わせ、インターンに来ていただければ業界としても歓迎する。

7.学生の募集と受入れ

項 目	評価項目	評価※
7-1	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	3
7-2	学生募集活動は、適正に行われているか	4
7-3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
7-4	学納金は妥当なものになっているか	4
7-5	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

課題

- ・7-1 本校職員が高等学校進路担当教員に専門学校の情報提供を実施している。また、高等学校からの本校入学生に対して、申込書など相互で情報の共有化をしている。また高校生対象の各説明会に参加するも、希望するすべての生徒に情報を提供できていない。
- ・7-2 募集活動は適正に実施されているが、18歳人口の減少、大学進学が増加、就職希望者など募集活動に工夫が必要と思われる。
- ・7-3 高校生・保護者にはオープンキャンパスの際、本校の教育成果を報告している。また、本校職員が高等学校進路担当教員に定期的に報告をしている。訪問に際し、報告頻度・報告内容等、当校担当者が資料作成と訪問スケジュールに苦慮している。

今後の対応または改善

- ・7-1 本校の各分野に興味を持っている生徒に対し、直接説明できる機会を企画する。
- ・7-2 高校への出前授業、校内進学説明会、会場進学説明会、バス見学会、オープンキャンパス等、募集活動は継続的に実施。また時代や社会ニーズに見合ったコース設置とカリキュラムを編成し、進路選択のニーズに繋げている。
- ・7-3 現在の取組みとして、当校の最新実績、出身高校別の実績等、高校進路担当者や生徒に提示している。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・学校経営の基盤として、入学者の確保が重要。
営業戦略を持った募集活動が必要。

8.財務

項目	評価項目	評価※
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

課題

- ・8-1 財政基盤の安定性は学校運営にあたり最重要課題である。
18歳人口減少により、定員の確保は厳しさを増しており、
入学者を確保するための戦略を持ち、継続的な企業努力を
推し進まなければならない。

今後の対応または改善

- ・8-1 財政基盤の安定のための入学者確保
4年制大学への進学が著しく高まっている。
大学と専門学校の違いをアピールして安定的に入学者数を
確保したい。そのためにも高い実務能力と専門性を提供できる
機関（学校）と認知されるような体系を目指していく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・時代の社会構造の変化により、学校機関だけでなく企業においても
財務基盤への影響は避けられない。企業努力により、経営の安定化に
努めることは経営者、従業員の使命である。学校は、18歳人口の減少
という状況にあるが、入学者を増やす企業努力に努めていただきたい。

9.法令等の遵守

項 目	評価項目	評価※
9-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
9-2	個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	4
9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
9-4	自己評価結果を公開しているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

課題

- ・9-3 早期に問題を把握するために、自己評価と外部アンケートを9月と3月に実施した。
問題点の改善には、分析と改善を実現化する計画的な取り組みが必要。

今後の対応または改善

- ・9-3 問題改善の取り組むためには、委員会等の設置が必要と考える。
実現可能な具体的な取り組みを協議していく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・教員評価アンケート、自己評価をしっかりと実施できている。
アンケートは内容によって厳しい評価もあるが、この声を真摯に受け止め より良い教育活動に転換していただきたい。

10.社会貢献

項 目	評価項目	評価※
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
10-2	学生ボランティア活動を奨励・支援しているか	4
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等含む）の受諾等を積極的に実施しているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

課題

- ・10-1 ○コロナを機に、地域団等の学校施設を利用した会合や講座が激減した。教育団体が学校施設を利用しての講座の開催があったが、コロナを機に学校施設の貸し出依頼がなくなった。
○当校主催の地域貢献活動は、月1回のペースで実施している。
- ・10-3 公開講座・教育訓練の受諾等であるが、現在の教員の授業形態では受託は厳しい（一部受託実施あり）

今後の対応または改善

- ・ 10-1 今後、受け入れを推進していく。
- ・ 10-3 同一部門での受け入れは見られる。当校の各分野で、
公開講座・教育訓練の受諾ができるよう、教員の業務状況の
調整を検討していく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・ 地域貢献や社会貢献は、学校だけでなく企業も同様です。
利益は関係なく、それらにかかわることが、社会的評価に繋がっていく。
社会・地域への貢献は、まさに学校機関のあるべき姿ではないか。